

雑穀アマランサスによる地域活性化推進事業

取組に至る背景・事業の目的

- 上伊那地域は、豊かな自然に恵まれた田園工業地域である。近年、高齢化や農業離れによる遊休農地の増加と荒廃が問題になり、農地の有効利用に雑穀アマランサスの栽培が始まった。
- アマランサスは、実や葉に含まれる高い栄養価や、観賞用としても楽しめる美しい花が特徴であり、「実も葉も花も！」活用できるスーパー雑穀である。
- 伊那地域アマランサス研究会は、産学官連携体制で発足し、この雑穀を地域資源として活用し地域活性化を目指そうと栽培、加工、研究活動を行っている。
- アマランサスを活用し、遊休農地の有効利用や新商品開発、地産地消による学校給食への普及、新たな観光資源の創出や、栽培の拡大を目的とした事業を展開している。

事業内容

- 遊休農地活性化「アマランサス栽培講習会」の開催。参加者へ種子の配布。
- 地産地消給食促進「アマランサス栄養学・調理講習会」の開催。学校栄養士へ給食のメニューを提案。
- 地域ブランド化創出「伊那地域アマランサス研究会シンポジウム」～伊那アマランサスの魅力！作る・食べる・楽しむ！～の開催。一般市民への地域ブランド化アピール。
- アマランサスPR用パンフレットの作成（22,000部）と配布。



伊那アマランサス・パンフレット

事業効果

- 遊休農地の解消とアマランサスの栽培普及を目的とした「栽培講習会」には47名の市民が参加。遊休農地等、約1.75haで栽培され、実の収穫量も1トンに増加し、遊休農地の活性化にもつながった。
- 高い栄養価を持つアマランサスを給食にも活用していただくよう開催した「栄養学・調理講習会」には、学校栄養士の先生方を中心に30名が受講。常磐会短期大学の川西先生らの講義で給食にも活用できるメニューを紹介。伊那地域の9つの小中学校でアマランサス給食が導入された。
- アマランサスを「伊那の地域ブランドに」と食デザイナーの大谷ゆみこ先生を迎えてのシンポジウムを開催。約100名が参加し、当研究会の活動を紹介し、多くの市民の関心が高まった。
- アマランサスPR用パンフレットを作成。一般市民等へ配布、伊那の観光PRにも貢献。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 高い栄養価を持つアマランサスの食べ方の研究と大学との連携による給食メニューの提案。
- アマランサスの実は直径1^ミ程度と大変細かく、収穫作業の合理化が課題。
- 栽培普及を進め遊休農地の解消と「春の桜、秋のアマランサス」としての花のPR。
- アマランサスを活用した新商品開発を行い農商工連携による地域経済の活性化を図る。

【選定のポイント】

地域住民を広く巻き込んだ取組であり、地域ブランドとして拡充・発展することで、多面的な地域活性化効果が期待できる。

団体名	伊那地域アマランサス研究会 (伊那市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	伊那商工会議所経営支援課 (電話 0265-72-7000)	事業費	704,053円
		支援金額	700,000円